

## 賀茂地区県立高等学校キャンパス別基本構想（令和8年7月3日公表）

### I 各キャンパス共通の学びの方向性

#### 1 教育目標・教育方針

##### (1) 教育目標

賀茂地区全体をフィールドとした学びの展開により、地域のみならず国や世界の将来を担う一員として、多様な考えを享受し、実践する力を持った人材を育成する。

##### (2) 教育方針

ア キャンパス間の人材交流やICTを活用した学びを促進し、豊かな知性と感性が響き合う教育環境を整備する。

イ 各キャンパスの伝統を尊重しつつ、地域と協働した探究的・実践的な学びを展開し、個に応じた指導を充実させる。

ウ 地域の特色ある資源を活かし、自治体・大学・企業と連携して、広い視野と主体的に挑戦する姿勢を育成する。

#### 2 設置課程・設置学科

全キャンパス：全日制課程・普通科

下田キャンパス（仮称）：全日制課程・理数科、定時制課程（昼間）

#### 3 学校行事・探究学習

入学式、卒業式の式典や芸術鑑賞教室、レクリエーション大会（eスポーツを含む）等の学校行事のほか、探究学習の合同実施も検討する。また、キャリア講座（例：下田高校の夢講座）の遠隔・対面ハイブリッド型での実施や、各キャンパスの文化祭に、他キャンパスのブースを設け、参加することを検討する。

#### 4 遠隔配信授業

全キャンパスの日課を揃え、各キャンパスの教員が対面で授業を行うことを基本とし、必要に応じて遠隔配信の授業（以下、「遠隔授業」という。）を実施し、質の高い教育環境を確保する。

教員数が少なく、複数の科目を設定することが難しいキャンパスは、兼務教員による授業を実施し、兼務教員による授業は、センター配信型の遠隔授業を考慮した上で、他キャンパスの兼務教員による対面授業、もしくはキャンパス間配信型の遠隔授業を実施する。また、生徒の進路希望に応じた学校設定教科・科目を全キャンパス共通で設け、キャンパス間配信型の遠隔授業を検討する。

#### 5 ICTの活用

ICTを活用して、キャンパス間だけでなく、全国や世界との積極的な交流を検討する。また、ICTの活用を通じて、賀茂地区の主要産業である観光産業の基盤となるDX人材を育成する。

#### 6 合同チーム・合同部活動の取扱

##### (1) 合同チーム

各キャンパスでの活動及び大会参加を基本とするが、各キャンパスで部員数が十分でなくなった場合は、合同チームとしての活動を検討する。

## (2) 合同部活動

自キャンパスにはなく、他キャンパスにある部活動は、合同部活動としての活動を検討する。合同部活動として参加する生徒は、各キャンパスで総合部（仮称）に所属することとし、平日は各キャンパスで、土日祝日は拠点校で活動することを基本とする。

## II 各キャンパスにおける学びの方向性

### 1 下田キャンパス（仮称）における学びの方向性

#### (1) 特色

##### ア 全日制課程普通科・理数科・昼間定時制課程の併設

観光産業等のDX化に対応できる幅広いデジタル人材育成を基盤とし、全日制課程の普通科、理数科、昼間定時制課程の併設により多様な資質・能力（認知能力・非認知能力）を有する生徒の可能性を追求する。場所を選ばず地域とつながり続けるDX人材の育成を促進し、主体的・自律的に学ぶ力を育てるとともに、理数科では高度理数デジタル人材の育成も視野に入れ、地域のみならず国や世界の幸福追求をする人材の育成を目指す。

##### イ 地域との連携・協働

下田キャンパス（仮称）への期待や憧れを育み、地域の未来への希望が抱けるよう、近隣のこども園等や小学校の園児・児童との交流や連携の拡充を図る。

首都圏や地元企業・自治体と協働し、地域の課題解決に向けた探究的な学びを通して自走力と主体性を育成する。これにより、地域の持続可能な将来を支える人材の育成を目指す。

#### (2) 教育内容

##### ア 教育課程の編成方針

上記の人材育成を基盤とした教育方針のもと、全日制課程（普通科・理数科）では、多様な生徒の潜在能力を引き出す教育課程を編成する。入学後の学習経験を踏まえ、生徒が学びを自分事として捉え、自らの意志で進路を選択できる自律した学習者の育成を図る。特に理数科では、理数探究などの独自の科目により科学的探究心を養い、難関大学進学に対応した理数科目の充実を図る。

また、昼間定時制課程では、基礎基本の定着を目指すとともに、幅広い進路希望に対応できる選択科目を設定する。

##### イ 独自の設定科目等

個々の進路実現に向けた学校設定科目を設ける。また、生徒会主催の行事等では、自治を尊重し、自主性を育み、自走力を高めていく。昼間定時制課程においては、南伊豆分校の学びを継承する。全日制課程では、探究学習等で課題解決のフィールドの一つに農業も含める。

#### (3) 設置予定部活動

現在設置している部活動の維持を図る。学校の規模が縮小した場合や活動用の施設が維持できなくなった場合は、設置の見直しを行う。

部活動	
運動部（13部）	男子バレーボール、女子バレーボール、男子バスケットボール、女子バスケットボール、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、サッカー、陸上競技、硬式野球、卓球、水泳、弓道、柔道

文化部（6部）	吹奏楽、写真、パソコン、生活科学、芸術（美術班・書道班）、 日本文化（茶道班・箏曲班）
---------	--

## 2 松崎キャンパス（仮称）における学びの方向性

### (1) 特色

#### ア 連携型中高一貫教育

平成20年度から松崎高等学校で実施している連携型中高一貫教育を継続し、松崎中学校、西伊豆中学校と連携した教育活動を行う。西豆学（総合的な探究の時間）合同発表会、部活動などを通じ中高の生徒間交流を行う。また、合同研修会、交流授業などを通じ中高の教員間交流を行う。

#### イ 共生・共育

平成23年度から松崎高等学校で実施している伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校との共生・共育を継続する。体育祭、文化祭、球技大会などを合同で実施し、生徒間交流を行う。また、自他を認め、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性を育成する。

### (2) 教育内容

#### ア 教育課程の編成方針

3類系（特進、総合・進学、美術）に合った科目を設定し、進学（国公立大学等）から就職まで幅広い進路実現に向けた教育課程を編成する。

1クラス20人程度の少人数教育による細やかな指導を行うとともに、一部の科目においては習熟度別でクラスを編成し、個に応じた学習支援を実施する。

#### イ 独自の設定科目等

美術の専門科目（素描、構成、彫刻等）を設定し、美術系の大学等への進学を可能にする。

総合的な探究の時間（西豆学）により、賀茂地域局との連携を通して地域、行政、企業、大学などの人材を活用し、探究学習を推進する。

### (3) 設置予定部活動

部活動	
運動部（4部）	バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、陸上競技
文化部（2部）	総合探究、美術
合同部活動※	弓道、吹奏楽

※弓道、吹奏楽は「合同部活動」として登録し、平日は松崎キャンパス（仮称）で活動する。週末や長期休暇期間の一部は下田キャンパス（仮称）と一緒に活動し大会等に合同で参加する。

## 3 稲取キャンパス（仮称）における学びの方向性

### (1) 特色

#### ア 地域との連携・協働

「社会に開かれた教育課程」を体現する学びの拠点として、賀茂地域の自治体や企業、学校、地域で活動する大学生等と連携・協働した豊かな教育活動を展開し、予測困難な時代にあっても自らの将来を切り拓くとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

上記に示すビジョンを具現化するため、教育活動全体をとおして「心・知・体」の調和的な育成による全人教育を推進する。また、相互理解を基盤とした「協調性」、自己を律し、他者と共生するための「規律性」、困難を乗り越え、自己開拓に挑戦する「チャレンジ精神」、目標の実現に向け、粘り強く取り組む「忍耐力」を資質・能力の重点として位置付け、その多面的な育成を図る。

心：精神面、集中力、意志の強さを育み、自己決定力を鍛える
知：知識から知恵へ、体験から経験へ、技術やスキルを鍛える
体：生活習慣を整え、体力や健康、身体的な強さを鍛える

## イ 幼小中教育との連携

地域との連携・協働を通じて、本キャンパスが掲げる資質・能力を育成するため、地域創生事業や企業との商品開発、部活動による地域交流に加え、東伊豆町の幼稚園、こども園、小学校及び中学校と連携した教育力向上事業等を推進し、生徒の学ぶ意欲を喚起する多様な教育活動を実施する。

## (2) 教育内容

### ア 教育課程の編成方針

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をとおして、個性と可能性を最大限に引き出す教育課程を編成する。

具体的には、基礎・基本の定着を軸とした少人数教育による細やかな指導を行うとともに、多様な進路希望に対応する選択科目の設置や、個に応じた学習支援を実施する。

### イ 独自の設定科目等

地域全体で生徒を育てるという方針の下、ニュースポーツやマーケティングなど、様々な選択科目や取組を計画する。

(選択科目又は取組の一例)

選択科目・取組	内容
ニュースポーツ	稲取ゴルフクラブと連携したゴルフ、アルティメットなど
保育基礎	東伊豆認定こども園における体験実習など
地域との連携・協働	食育推進事業、地域の人々と語る会、地域防災研修、地域住民との交流など

## (3) 設置予定部活動

部活動	
運動部（3部）	男子バレーボール、女子バレーボール、陸上競技
文化部（2部）	地域貢献活動、美術・写真
合同部活動※	吹奏楽

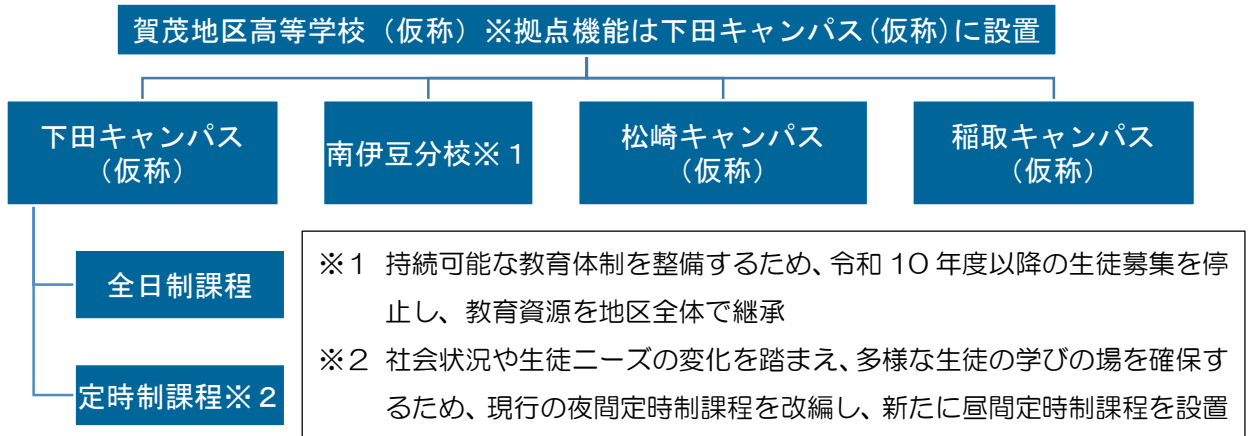
設置予定部活動は、教職員配置や入部状況により変更する場合あり。

上記のほか、レスリング部及び新体操部は、地域クラブと連携し、現在の体制維持を検討する。

※吹奏楽は「合同部活動」として登録し、平日は稲取キャンパス（仮称）で活動する。週末や長期休暇期間の一部は下田キャンパス（仮称）と一緒に活動し大会等に合同で参加する。

### Ⅲ 今後の予定【各キャンパス共通】

#### 1 本校—分校間の組織体制



#### 2 校名・キャンパス名・キャンパス校章・キャンパス校歌決定方法

##### (1) 校名・キャンパス名

高校名及び各キャンパス名については、学校関係者等の意見を取入れながら、名称選考審査会を経て、教育委員会定例会へ提出する。

決定した名称は、令和9年3月公表予定の「キャンパス制基本計画」に掲載する。

##### (2) 校章

###### ア 基本的な考え方

将来構想検討委員会が学校関係者等の意見を取入れながら決定する。現在の各校の校章についても、各キャンパスで継承することができるものとする。

###### イ 校章の決定方法

将来構想検討委員会が学校関係者と調整の上、審査・選考を行い、決定する。

##### (3) 校歌

キャンパス制開始後、改めて在校生等の意見を取入れながら決定する。現在の各校の校歌は、各キャンパスで継承することができるものとする。

#### 3 移行期入学生(令和8・9年度)の取扱

各高校に在籍する生徒は、令和10年4月時点で各キャンパスの在校生となる。

※卒業証書は共通の高校名で発行する。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
7年度入学生(全日制)	既存の各高校に在籍	→	各キャンパス (高校名は共通) に在籍
7年度入学生(定時制)			
8年度入学生(全日制)			
9年度入学生			
10年度入学生			